かしこく
やさしく
たくましく

直方第三中学校　学校だより
文責　校長　坂田幸則
令和６年３月１１日　第１２号

『３年生を送る会』

◇3月6日(水)3. 4校時

母校を巣立っていく ３ 年生への感謝の気持ちを込めて、「３年生を送る会」が行われました。１，２年生からは、くす玉メッセージとコサージュの贈り物。生徒会執行部からは、動画と三中クイズがあり、大変盛り上がりました。

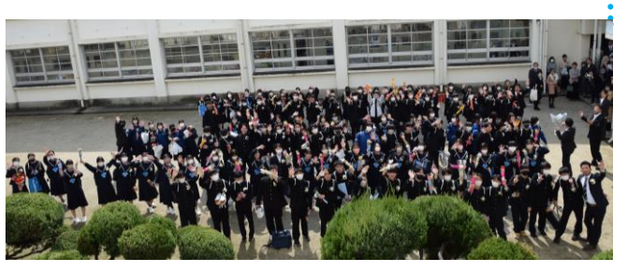
そして、職員からは、心温まる「卒業ビデオ」のプレゼント。

終了後は、自然と３年生から大きな拍手が起こりました。皆感謝と満足感に満ち溢れた表情をしていました。

最後に、卒業式に参加できない１，２ 年生のために、３ 年生が「大地讃頌」の合唱を聴かせてくれました。歌っている表情からは、「1，２ 年生のみんな。三中を頼んだぞ」という力強いメッセージが感じられました。

第７７回卒業証書授与式

３月７日（木）、第 77 回卒業式が挙行されました。心配された天気も、最後の学活が終わるころには、晴れ間も見え、卒業生の門出を祝ってくれているようでした。式では髙宮菜々さんが、生徒代表として卒業証書を受け取り、115 名の卒業生が、皆晴れやかな表情で学び舎を巣立っていきました。少しの寂しさもありますが、校長として彼らの今後の活躍を思うとき、喜びも感じます。



～学校長式辞より　抜粋～

皆さんは、私が校長となって初めて出会った３年生です。たった１年間の付き合いでしたが、大変心に残る学年でした。令和３年４月に、夢と希望に胸を膨らませ、本校の校門をくぐり、以来３年間、本校が掲げる「かしこさ」と「やさしさ」と「たくましさ」を身に付け、学習に部活動に、学校行事に全力で取り組み、友達との友情を深めながら充実した中学校生活を送ってきました。

別れにあたり、皆さんに大切なお話を紹介します。それは、かけがえのない毎日を大切に過ごしてほしいということです。皆さんは、スティーブジョブズという方を知っていますか。その名前は知らなくても、スマートフォンの「i Phone」やタブレットＰＣの「i Pad」は知っていると思います。それらの商品を世に送り出した、アップル社という会社を創業した人です。そのスティーブジョブズが、アメリカのスタンフォード大学の卒業式で行った有名なスピーチの内容を紹介します。

『私は、１７歳のある時、こんな言葉に出会いました。「毎日を人生最後の日だと思って生きよう。いつか本当にそうなる日が来る」。その日を境に３３年間、私は毎朝、鏡に映る自分に問いかけるようにしているのです。「もし、今日が人生最後の日だとしても、今からやろうとしていることをするだろうか」と。その答えが「NO」のままなら、ちょっと生き方を見直せということです。

「自分はまもなく死ぬんだ」という認識が、重大な決断を下すときに役立つのです。なぜなら、周囲からの期待、プライド、失敗や恥をかくことへの恐怖など、これらはほとんどすべて、「死」の前では何の意味もなさなくなるからです。そこに残るのは本当に自分にとって必要なものだけです。「死」を覚悟して生きれば、「何かを失う」という心配をせずに済みます。我々はみんな最初から「裸」です。素直に自分の心に従えばよいのです』

もちろん、彼が言いたかったことは、好きなことだけをすればよいということではありません。人生にとって必要な勉強はしなければなりません。人生１００年時代。AI（人工知能）の普及によって、今後は今ある仕事の多くが無くなったり、今は存在しない新しい仕事が生まれたりしてくることでしょう。そんな激動の社会を生きる皆さんには、ぜひ日々を無駄にせず、大切に生きてほしいと願います。（後略）

◇保護者の皆様へ

令和５年度が間もなく終わろうとしています。１年間の温かいご理解とご協力ありがとうございました。これからも、生徒にとって「価値のある学校」、保護者の皆様にとっても「安心して子供を預けられる学校」を目指して来年度も本校職員一同、真摯に教育活動に取り組みます。